



株式会社アイ・エス・ビー

汎用系・業務系システム開発・運用を中心とする情報サービス企業。モバイル通信分野が事業の柱で、技術とサービス、ノウハウを融合した統合ソリューションを提供している。2015年3月、東証一部に上場。

所在地：東京都品川区大崎5-1-11
 設立：1970年6月
 資本金：17億752万円
 従業員数：1,155名（2014年12月現在）
 URL：http://www.isb.co.jp/

（取材日：2015年4月）

POINT

Progress Corticonの採用により、診療報酬ルールを一元管理し、頻繁に行われる改定にも迅速に対応

ノンプログラミング製品のため、ルール管理にかかる手間と時間を節約

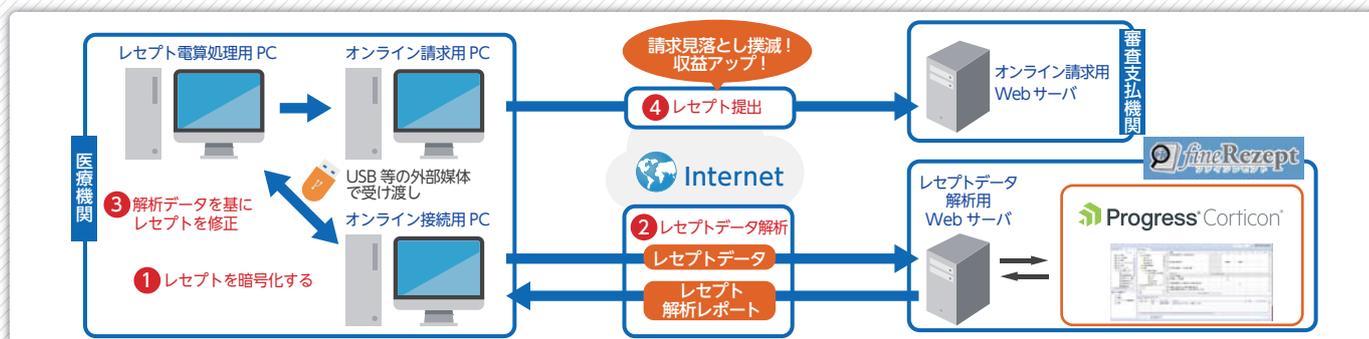
診療報酬の請求間違いだけでなく、請求漏れを無くすことで、中小医療機関の財務体質の適正化にも貢献

Progress Corticonの導入により 中小医療機関を支援し、地域医療を支える 画期的なサービスを実現

モバイル通信分野を中心にさまざまなITソリューションを提供するアイ・エス・ビー。同社では、医療機関におけるレセプトにまつわる課題を解決するため、電子レセプト解析ソフト「ファインレセプト」を開発しましたが、そのビジネスルール管理エンジンにアシストの「Progress Corticon」を採用。診療報酬ルール改定への迅速な対応を実現し、医療機関の収益改善および地域医療への貢献を目指しています。

課題	対策	効果
<ul style="list-style-type: none"> 頻繁に行われる診療報酬ルールの改定に対応する際の負担が大きい ルール改定の方針発表から実施までのスケジュールに余裕がない 医薬品等マスターデータの更新に合わせて、迅速な対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ルール改定やマスターデータ更新に柔軟に対応するため、BRMS(ビジネスルール管理システム)を導入 ノンプログラミング製品のProgress Corticonで診療報酬ルールを管理 地域医療の担い手である中小の医療機関が採用しやすいクラウドサービスとして提供 	<ul style="list-style-type: none"> 請求漏れの防止により、収益を少なくとも2%から3%は改善できる見込み 適正で精度の高いレセプトの作成、診療報酬に関する事務作業を大幅に効率化 患者にとっても適切な診療や、医薬品投与を受けることが可能に

システム概要



Progress Corticon

レセプト作成にまつわる負担やミスの軽減を通じ、地域医療への貢献を目指す

アイ・エス・ビーは、事業の柱であるモバイル通信分野を中心に、流通・製造、金融、医療・介護、官公庁、放送、アウトソーシングなど、幅広い分野のシステム開発と運用を手掛ける情報サービス企業です。これまでは受託開発が中心でしたが、最近では各分野で培ったコア技術とサービス・ノウハウを融合した統合ソリューションの提供を進めるとともに、クラウドサービスの拡充にも力を入れています。「ファインレセプト」誕生の背景について、執行役員 第二事業本部第二営業統括部統括部長 齋藤信栄氏は次のように語ります。

齋藤氏 今では売上の3割程度をクラウドなどITサービスの提供が占めるようになりました。その中でも医療分野は今後の有望市場と考え、2年ほど前から注力してきましたが、製品化には至っていませんでした。こうした状況のもと、医療関連分野で多くの実績をあげているTMMC社との協業により機能が生まれたのです。



齋藤信栄氏

この時、両社で課題と認識したのが、医療機関が作成するレセプト（診療報酬明細書）にまつわる問題でした。レセプトは、4,000種類以上の複雑多岐に渡る診療報酬ルールに準拠することが求められます。現在、医療業界ではレセプトの不備が原因で、診療報酬の減額や支払遅延がたびたび発生しており、大きな問題となっています。

その原因としては、診療報酬ルールが頻繁に改定されること、改定方針の発表から実施までかなりタイトなスケジュール（12月に基本方針発表、翌年4月から全国一律で現場運用開始）となっており病院側の準備期間が短いこと、などが挙げられます。また、レセプトに問題は無くても、なんらかの理由で請求が漏れてしまうケースもあります。これらはすべて収益減につながりますから、決して小さな問題ではなく、特にクリニックや小規模病院にとっては死活問題になりかねません。

また、第二事業本部第二営業統括部 第4営業部部長 大橋政信氏も次のように語ります。

大橋氏 いま国が進めている地域医療という考え方は、クリニックや小規模病院によって支えられています。つまり、もしこれらの病院が破たんするようなことになると、地域医療もまた崩壊してしまいま

す。こうした事態をITの力で予防することができれば、医療機関を健全化し、地域医療にも貢献できるのではないかと考え、レセプト作成にまつわる負担やミスを軽減するサービス、「ファインレセプト」を共同開発することになったのです。



大橋政信氏

運用におけるメンテナンス性の高さを評価して Progress Corticonを採用

両社は2014年6月より本格的にサービスの検討を開始。中小の医療機関が初期投資無しで手軽に利用できるよう、クラウドでのサービス提供を決めました。ユーザーインターフェースやクラウド対応をアイ・エス・ビーが、レセプトの解析についてはTMMCが担当するかたちで開発を進めることになったのですが、その際、診療報酬ルール改定への迅速な対応を支援するビジネスルール管理エンジンとして採用されたのが、Progress Corticonだったのです。株式会社TMMC コンサルティング事業部 マネージャー コンサルタント 宮城卓弥氏は、採用の理由を次のように語ります。

宮城氏 選定にあたっては、Progress Corticonを含め3社の製品を比較しました。中でも某製品とは最後まで迷ったのですが、その製品は拡張性はあるもののウォーターフォール式にかなりの作り込みを必要とするため、今後のメンテナンスのことを考えるとスピーディな対応が難しいと考え、Progress Corticonを選びました。

レセプトは、定期的な改定だけでなく、日々小規模な改定が発生します。そのため、最初からシステムを作り込んでしまうと、迅速な対応が困難になってしまうのです。

その点、Progress Corticonなら、ルールの変更をノンプログラミングでシステムに反映することができるため、メンテナンスは簡単。また、医薬品などマスターデータの更新にも、すぐに対応できるという点も魅力です。

2014年8月、両社はProgress Corticonの採用を決定。開発を進め、翌年3月に開発を完了しました（正式なサービスの開始は2015年6月）。

ノンプログラミングという特性を活かし、いつどんなルール改定があっても対応可能に

これまでレセプトの作成業務については、医療機関の事務方へ大きく依存しており、小規模な病院であるほど、個人の知識やノウハウに依存する面がありました。しかし「ファインレセプト」なら、4,000種類を超える複雑な診療報酬ルールを一元管理。さらにTMMCがこれまでに培ってきた豊富な経験とノウハウをもとに作られたチェック機能が、記載不備に加え、請求の見落としといったミスも防止。ユーザを選ばず、事務作業の効率化に貢献します。そして、開発にあたってTMMCでは、「ファインレセプト」のメンテナンス性の柔軟さとパフォーマンスにこだわったといえます。

宮城氏 Progress Corticonなら、ExcelライクなGUIベースのルール管理機能により、ノンプログラミングで素早くルール改定に対応できます。これでもし別の製品を採用していたら、ルール改定へ対応する場合には都度プログラムを組む必要がありますから、おそらく3倍の手間と時間がかかっていたと思います。こうしたコストは、結果的に提供価格へ跳ね返ってきますから、中小医療機関向けという「ファインレセプト」のコンセプトとずれてしまいます。また、莫大な数のルールが設定されているため、ルールへのアクセス時間が最小となるパフォーマンスを出すのに苦労しましたが、よりユーザにとって使いやすいサービスが実現できました。

医療機関の財務体質と患者が受ける医療の適正化を実現し、社会貢献のかけはしに

「ファインレセプト」は、すでに都内の17の病院でテスト的に導入されています。導入の具体的な効果が出てくるのはこれからですが、TMMCがこれまでコンサルティングを通じて得た経験から予測すると、医療機関の収益を少なく見積もっても2%から3%は改善できる見込みです。

齋藤氏 「ファインレセプト」の精緻なチェック機能を使えば、適正で精度の高いレセプトの作成が可能になるため、診療報酬に関する事務作業を大幅に効率化できます。加えて、患者側にとっても適切な診療、医薬品投与を受けることができます。さらに、Progress Corticonのルールデバッグ機能を活用することで、システムの改善が可能ですので、今後もサービスのより一層の質的向上に努めたいと考えています。